

事務連絡
令和8年6月4日

一般社団法人 日本養豚協会会長 殿

農林水産省畜産局畜産振興課長

スマート畜産技術の導入状況に関するアンケートへの御協力について（協力依頼）

我が国の畜産業の直面する高齢化や慢性的な人手不足による作業負担の増大や、燃料・資材価格の高騰による経営の悪化等の課題解決の手段として、スマート畜産技術の開発・普及の重要性は益々高まっております。また、畜産環境対策や地球温暖化に対応した技術開発も喫緊の課題となっております。こうした課題を科学・技術により、改善し解決する手段として、ロボットやAI、IoTなどの先端技術を活用したスマート畜産の導入が進められています。

このような中、農林水産省としましては、今後取り組むべきスマート畜産技術の開発・改良の方向性を検討するとともに、普及に当たっての課題を把握することを目的として、畜産現場におけるスマート畜産技術の導入状況等に関するアンケートを実施することといたしました。

つきましては、貴会会員に下記のウェブアンケートへの回答に御協力いただきますようお願い申し上げます。

1 調査対象

畜産農家（経営体）

対象畜種：牛、豚、鶏

2 実施方法

以下の URL からウェブアンケートに回答

<https://forms.cloud.microsoft/r/6nHAQjUP2A>



3 調査実施期間

令和8年6月5日（金）～19日（金）

4 調査結果の取り扱いについて

農林水産省において取りまとめの上、農林水産省内での検討に使用するほか、公表用会議資料等に使用します。農場等が特定できる情報は公表しません。

5 アンケート実施に当たっての留意事項

本アンケートにおけるスマート畜産機器・設備・技術とは、ロボット、AI、IoT等の先端技術を活用して飼養衛生管理の省力化や高度化、生産性の向上を図る技術を用いた機器や設備、システム等を指します。

例) 各種ロボット類（搾乳、哺乳、餌寄せ、清掃、洗浄、敷料散布、たい肥製造等）
分娩監視システム、発情発見システム、行動監視・異状検知システム
自動給餌システム、作業・経営管理システム、家畜群管理システム、
自動計測豚衡機、非接触型体重推定装置、ボディコンディションスコアカメラ、
放牧管理システム。環境センシング技術と組み合わせた畜舎環境制御システム。
へい死鳥監視システム、ドローン、自動走行トラクター、
カメラやセンサーを備えた野生動物防除装置、遠隔診療システム 等

なお、従来から使用されている一般的な設備や機器（バークリーナーや飼料搬送装置、集卵コンベア等）は含まれませんが、センサー等と連携して自動で給餌量を調節する、畜舎内を自動走行して清掃を行う、集卵時に卵重データ等を収集し異常を検知する等の機能が追加されているものは対象とします。

回答にあたり不明な点がございましたら、以下の農林水産省畜産振興課担当者までご連絡ください。

以上

農林水産省
畜産局畜産振興課（担当：近藤、井原、立花）
（電話）03-6744-2524（直通）
（E-mail）chikushin207@maff.go.jp